

A 136 電子レンジの使用に関する調査(2)

大阪市立大生活科学 宮川久通子 武副礼子
桜井女子短大 南 幸, 梅花短大 鎌田信子

〔目的〕電子レンジの食生活における調理機器としての位置づけや、肉類臭などを明らかにしたいと考へ、近畿地区の短大生の家庭における実態調査を報告した。ついで今回は、ほぼ同様の範囲で調査地を拡げて行なつた。

〔方法〕鹿児島、福岡、熊本、山口、金沢、大阪、名古屋、仙台、秋田、弘前、札幌の各短大生の家庭の調理担当者にアンケート調査用紙 1705 部配布し、記入を依頼した。

〔結果〕回収数 1404 部、回収率 82% であつた。総数の傾向をのべるゝ次のようであつた。

- 1) 記入者の年齢は 40 年代が 65% で、主婦専業 33%、家族数は 4 人が最も多く、74% が核家族であつた。食事は家族が揃わず何度かに分ける家庭が 35% あつた。
 - 2) 電子レンジの保有率は 51% であり、タイプとしては、電子レンジの機能のみ、のものを保有しているが 49% であり、入手時期は 6~10 年前が最も多かつた。
 - 3) 電子レンジをよく使用する人は主婦 81% であり、次によく使う人は子供 75% であつた。使用頻度は、毎日使う、が 63% で最も高く、1 日の回数は 2 回前後が最も多かつた。
 - 4) 使用目的に順位をつけると、1 位のトップはあたためる、2 位のトップは解凍であつた。
 - 5) 他の加熱機器との使用比較では、電子レンジ加熱の多いものは冷どはん、あんまんであり、おかずのあたためではフライもの、むしもの、焼きものによく使われ、料理のためにはガスコンロには及ばないが、下ごしらえ、むしものに利用されていた。
 - 6) 特に不便だと思ふ臭は、容器に制限がある、すめや、すく固くなる、などであつた。
- その他、電子レンジを持っていない人についてもまとめ、項目内のクロス集計を行なつた。